

世界最大の民主主義データベース

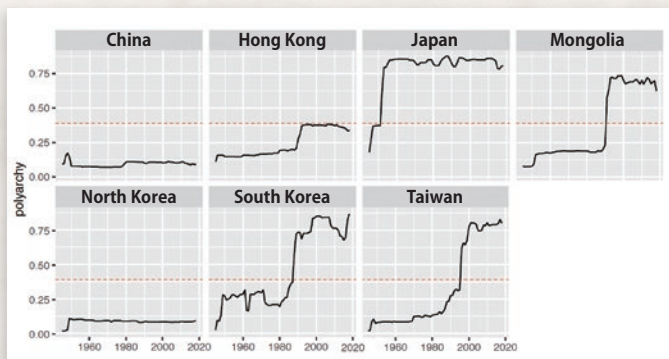
法学部政治学科 教授 粕谷祐子^{かすやゆうこ}

ここ数年、ヨーロッパやアメリカなど世界各地で「民主主義の衰退」が懸念されています。そのような報道の際によく引用されるのが、V-Dem (Varieties of Democracy) というデータベースです。

V-Demは、約200カ国を対象に1900年頃から現在まで毎年民主主義の程度を測定したもので、公開されてからまだ5年ほどしかたっていない。しかしこれまで作成されたどの民主主義データベースよりもカバーする国・年が多く、また測定にあたっての透明性が高いことから、早くも業界スタンダードとなりつつあります。このデータベースを作成している団体 (V-Dem Institute) はスウェーデンに本部があるのですが、縁あって、東アジアの支部であるV-Dem 東アジアセンターの初代所長を2019年から務めています。

V-Demデータベースを使って何ができるかというと、例えば下段にあるグラフが描けます。これは、第二次世界大戦後から最近までの東アジア諸国における民主主義の程度です。値が高いほど民主主義的(公正な選挙や、結社・報道の自由が存在する政治)である程度が高く、赤い点線が民主主義と独裁を分ける閾値を示しています。日本は、国内では「民主主義の危機」が指摘されることもありますが、東アジア諸国との比較では、長期にわたり民主的な政治を維持してきたことが分かります。

V-Dem 東アジアセンターは、設立からまだ日が浅いですが、日本だけでなく、台湾、韓国、香港で活躍する政治学者にも研究員として加わってもらい、すでに何件もの国際シンポジウムやワークショップを実施してきました。コロナ禍のせいでオンラインでの開催がほとんどですが、対面実施よりもコストをかけずに国際的な研究交流ができるので、コロナのおかげで活動が活発になっているともいえます。アジア諸国のなかで日本は比較的自由に政治を語れるという環境を活かし、このセンターをアジアにおける民主主義研究の拠点に育てるのが私の最近の目標です。



出典 V-Demデータベース (<https://www.v-dem.net/en/>) より著者作成



東アジアセンター設立の覚書交換の際の記念写真(スウェーデンのV-Dem Instituteにて)

談話室

教員によるエッセイコーナー